

日 時 平成30年9月18日（火）  
3校時（10：25～11：10）  
場 所 すみれ組教室  
対 象 小学部3・4年（6名）  
指導者 日當友恵（T1） 細川絵里加（T2）  
有馬多喜子（T3）

## I 単元名 「フラワーポットを作ろう」

## II 授業づくりの視点

### 1 単元の設定【単元のつながりを生かし、意欲的に取り組める単元に】

本単元は、5月に取り組んだ「わくわくオリンピックの旗を作ろう」からつながり、作ってプレゼントする活動の2回目である。わくわくオリンピックの旗作りでは、活動の流れが分かり、自分で好きな材料や道具を選びながら、会場装飾用の旗と応援用の旗を完成させた。応援用の旗作りでは、自分の分だけでなく、小学部全児童・職員分と家族の分を制作しプレゼントしたことで、人に喜んでもらうことを体験した。また、活動の手順や一連の流れが分かると、自分から意欲的に取り組み、時間いっぱい活動する姿も多く見られた。

すみれ組児童は制作活動が好きな児童が多く、これまでの様々な制作活動では、自分なりのイメージをもって工夫して取り組んだり、友達の様子を見ながら取り組んだり、教師と一緒に取り組んだりするなど、全員が「作る」活動を楽しんでいる。また、10月の宿泊学習では「サンドブラスト」という制作体験も行う計画をしている。

そこで、このような児童の実態と、5月の単元での体験、今後計画されている制作体験とのつながりを踏まえ、好きなことや得意なことを生かしながら一人一人に意欲的に取り組んでほしい、自分が頑張って作ったことで人に喜んでもらえてうれしいという経験を積み重ねてほしいという願いから、この単元を設定した。

### 2 単元の計画【繰り返すことで、プレゼントに向けて見通しや楽しみがもてる計画に】

単元全体の計画は次の通りである。第1次では、単元の流れを知り、どんなデザインにしたいか、誰にプレゼントしたいかを考えながら試作品を作る。自分で考えたり、複数の中から選択したりする活動を取り入れることで、前単元の活動からの広がり、「作りたい」という気持ちをもつことにつなげていきたい。

第2次では、自分や友達、家族の分を制作する。家族の分は、この時期には敬老の日があることから、児童みんなが大好きな祖母の分を制作することとする。旗作りのときと同様な流れにすることで、見通しをもって取り組めるようにしたい。また、宿泊学習での「サンドブラスト」の制作にもつながるように、同じような道具や制作工程も取り入れていきたい。

第3次では、完成したポットをプレゼントする。簡単なメッセージカードも作成し、ポットと一緒にラッピングする活動にも取り組む。自分が頑張って作った物をプレゼントする経験を積み重ねることで、「喜んでもらえてうれしい」「喜んでもらいたいからまた作りたい」

という想いをもつことにつなげたい。

第4次では、学習の様子を写真で振り返り、頑張ったことや楽しかったことを思い出カードにまとめる。本単元の頑張りを振り返るとともに、次はどんな活動をしたいかなどを話題にし、次の学習への意欲付けとしたい。

### **3 活動内容【自分のもっている力を生かし、喜びや達成感を感じられる活動内容に】**

活動の中心となるポット作りは、児童が集中力や制作意欲を持続しながら活動できるように、様々な材料や道具、工程を取り入れる。クラフトパンチでの型抜き、モザイクタイルの分割、ビーズ通しなどの活動を設定することで、材料や道具、工程を変えながら、最後まで楽しみながら取り組めるようにしたい。また、自分の活動が分かり、見通しをもって自分から取り組めるように、単元期間中は授業全体の流れを固定し、毎日同じ流れで繰り返し活動する。さらに、「できた」という喜びや達成感を感じられるように、活動中に良いところを称賛しながら、全員でその気持ちを共有し活動していきたい。

### **4 学習内容への支援【活動しやすい道具や配置にし、自分から進んで取り組める支援に】**

児童がイメージや意欲をもって取り組み続けられるように、掲示物や完成品を飾る場所の設置を工夫しながら、活動場所の雰囲気づくりを行う。児童が進んで活動に取り組めるように、使いやすい材料や道具を準備したり、分かりやすい工程表を提示したりする。集中してじっくり活動に取り組めるように、活動場所を固定し、材料や道具の置き場にも配慮する。また、工程は全員が同じであるが、児童の実態に合わせて、補助具を活用したり、飾りを付ける場所に印を付けたりする。そして、教師はポットの完成やプレゼントすることを一緒に期待するような声掛けをしながら、児童の活動意欲を高められるように支援していきたい。

### **5 協働的活動への支援【友達と一緒に活動していることを感じられる支援に】**

友達の様子を見たり、一緒に活動していることを感じたりできるように、お互いの活動が見合えるような場を配置する。材料や道具は個別にケースに準備しておくが、全員で共有して使用できるものも準備し、道具を交換したり材料を追加したりしながら活動できるようにする。また、友達の活動の様子を知ることができるように、授業の終末場面で友達が作った物を紹介したり、工夫していた点を称賛したりする。

同じ目的に向かって全員で取り組む経験を積み重ねることで、一体感をもって取り組むことの楽しさを感じられるようにしたい。

## **Ⅲ 単元の目標【単元で目指す主体的な姿】**

- 1 意欲的に制作活動に取り組む。
- 2 活動内容や手順が分かり、教師や友達と一緒に活動する。

#### IV 単元計画（総時数 11 時間、11 日間）

	主な活動内容	月 日	時 数
第 1 次	オリエンテーション 試作品作り	9月 7日 (金) ~ 9月 10日 (月)	2 時間
第 2 次	ポットを作ろう	9月 11日 (火) ~ 9月 18日 (火)	5 時間 (本時 5 / 5)
第 3 次	メッセージカード作り、ラッピング プレゼントをしよう	9月 19日 (水) ~ 9月 21日 (金)	3 時間
第 4 次	振り返り	9月 25日 (月)	1 時間

#### V 本時の授業

##### 1 本時の授業について

本時は第 2 次の 5 日目であり、祖母にプレゼントするポットを制作する。これまで繰り返し取り組んできたことで、活動の流れが分かり、自分から活動に取り組む姿も増えてきた。児童一人一人が大好きな祖母のために、見通しをもって制作活動に取り組み、プレゼントすることを楽しみにしながら主体的に活動する姿を目指したい。

##### 2 本時の目標【本時で目指す主体的な姿】

- (1) 自分から進んでポット作りに取り組む。
- (2) 「おばあちゃん」にプレゼントすることと制作手順が分かり、教師や友達と一緒に活動する。

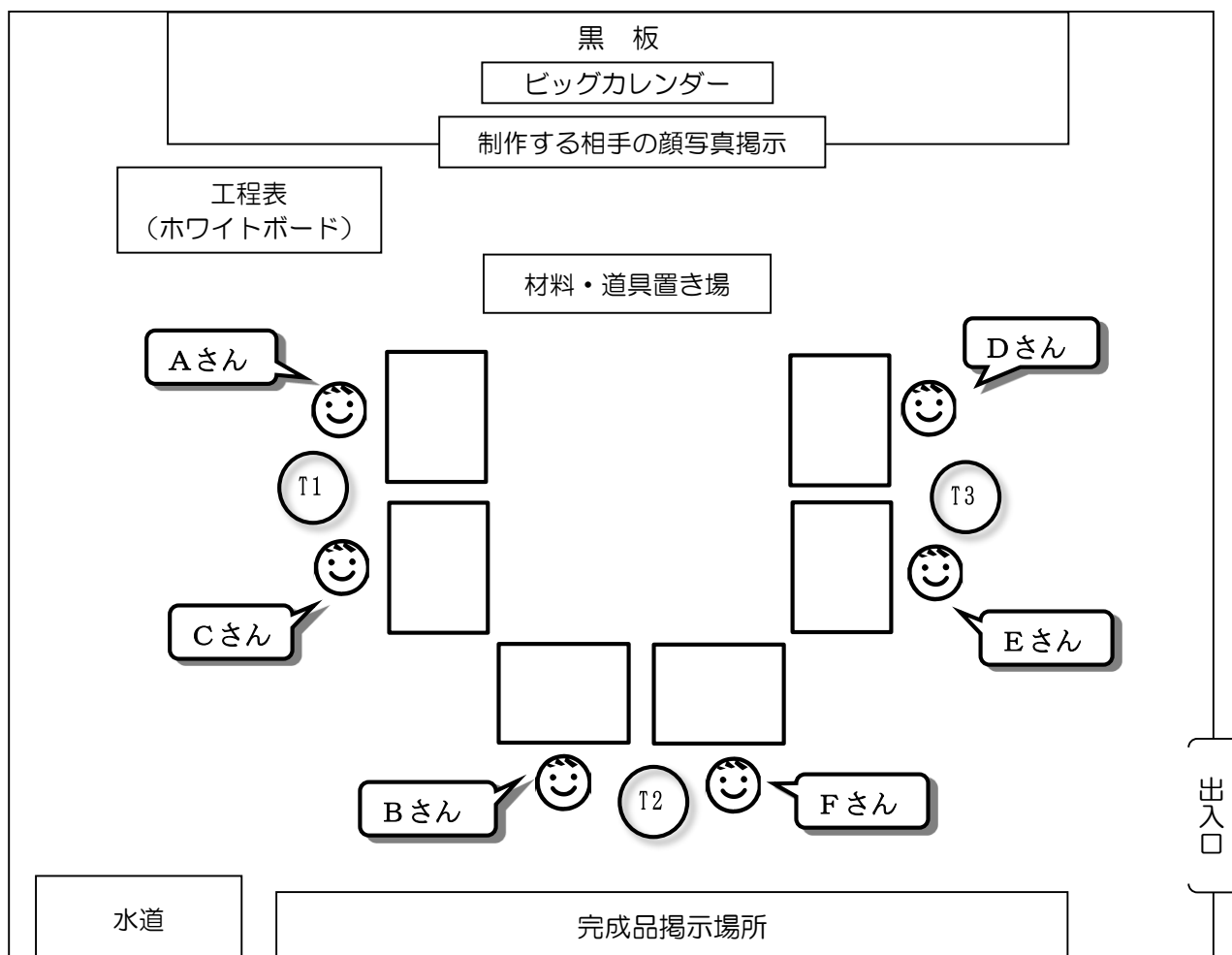
##### 3 本時の展開

学習活動	支援上の留意点
1 挨拶 (10 : 25 ~)	○姿勢を整え、教師に注目するように促す。
2 今日の活動の確認 (10 : 26 ~) ○活動の流れ、祖母の分を制作することを確認する。	○ビッグカレンダーを見ながら前時までの活動を確認し、本時が最後のポット作りであることと、祖母の分を制作することを伝える。 ○進んで活動に取り組めるように、祖母の顔写真カードを提示し確認しながら、「プレゼントするために頑張ろう」などと声掛けをする。
3 制作活動 (10 : 35 ~)  <①クラフトパンチでの型抜き> ○型抜き用の画用紙が入ったケースと使いたいクラフトパンチを選び、自分の机に持っていく。	○活動の切り替えが分かりやすいように、工程ごとにタイマーを使用したり個数を提示したりしながら進めていく。  ○自分が使用する物が分かるように、画用紙を児童別にケースに準備しておく。 ○使いたいクラフトパンチを選べるように、複数の種類を用意する。

<p>○クラフトパンチで型抜きをする。</p> <p>○型抜きした飾りを、両面テープで貼り付ける。</p>	<p>○一人で型抜きできるように、型抜きしやすいサイズの画用紙や補助具を用意する。</p> <p>○全員でクラフトパンチを交換しながら使えるように、共有の置き場を設ける。</p> <p>○児童の実態に応じて、貼る場所が分かりやすいように、事前に印や両面テープを付けておいたり、教師が両面テープを適量切って渡したりする。</p> <p>○タイマーが鳴ったら活動を終了し、画用紙とクラフトパンチ、ごみをケースに片付けるように声掛けをする。</p> <p>○次の活動に流れ良く移れるように、ケースはT1が回収する。</p>
<p>&lt;②モザイクタイルの分割&gt;</p> <p>○使いたい色のモザイクタイルを2種類選んでケースに入れ、自分の机に持っていく。</p> <p>○モザイクタイルを手で割る。</p> <p>○割ったモザイクタイルを、両面テープで貼り付ける。</p>	<p>○好きな色を自分で選んで活動できるように、複数の色を用意する。</p> <p>○最初に選んだ色以外の色も使用できるように、全員で共有して使えるモザイクタイルも用意しておく。</p> <p>○できるだけ一人で取り組めるように、活動を見守ったり、「パキパキ」と具体的な声掛けをしたりする。</p> <p>○児童の実態に応じて、貼る場所が分かりやすいように、事前に印や両面テープを付けておいたり、教師が両面テープを適量切って渡したりする。</p> <p>○タイマーが鳴ったら活動を終了し、モザイクタイルと両面テープ、ごみをケースに片付けるように声掛けをする。</p> <p>○次の活動に流れ良く移れるように、ケースはT1が回収する。</p>
<p>&lt;③ビーズ通しでの持ち手作り&gt;</p> <p>○ビーズが入ったケースとワイヤーを自分の机に持っていく。</p> <p>○ワイヤーにビーズを通す。</p>	<p>○ビーズ通しがしやすいような幅のワイヤーを用意する。</p> <p>○児童の実態に応じて、ビーズの個数を調整し、児童別にケースに準備しておく。</p> <p>○ビーズを上手く通せないときは、通す場所を指さしたり、手を添えたりして、教師と一緒に取り組むようにする。</p> <p>○活動の終了が分かりやすいように、ケースに入っている全てのビーズを通し終わったら終了とする。</p>
<p>&lt;④持ち手をつけて完成&gt;</p> <p>○ビーズを通したワイヤーを、ポットに取り付けて完成させる。</p> <p>○完成したポットを黒板に飾る。</p>	<p>○ポットの両脇にあるリングに、ワイヤーを引っ掛けるように促す。難しいときは、教師と一緒にやるようにする。</p> <p>○ポットが完成したら、黒板に飾るように声掛けをする。</p>

<p>3 片付け (11:00~)</p> <p>○ビーズが入っていたケースを片付ける。</p>	<p>○ビーズが入っていたケースを、材料・道具置き場に片付けるように声掛けをする。</p>
<p>4 振り返り (11:05~)</p> <p>○完成したポットをみんなで見合う。</p> <p>○次時の活動を確認する。</p>	<p>○本時の学習を振り返ることができるように、一人ずつ完成品を紹介しながら、活動中の様子や工夫していた点などを紹介する。</p> <p>○本時の頑張りを全員で共有できるように、ビッグカレンダーへの注目を促し、花丸を付ける。また、祖母にプレゼントすることが楽しみになるように、顔写真カードを提示したり、「おばあちゃんも喜ぶね」などと話題にしたりする。</p> <p>○次時は、メッセージカード作りをすることを伝える。</p>
<p>5 挨拶 (11:10)</p>	<p>○姿勢を整え、教師に注目するように促す。</p>

### 3 配置図



## VI 個人の目標及び支援（9月14日作成）

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援（教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他）
Aさん (3年・男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の大まかな流れが分かり、時間いっぱいポット作りに取り組んでいる。</li> <li>細かい作業はあまり得意ではないが、クラフトパンチや両面テープを剥がす作業は教師と一緒に繰り返し取り組むことで少しずつ慣れ、一人でできる部分も増えてきている。</li> <li>友達や先生へのプレゼントを楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れが分かり、できるだけ自分の力でポット作りに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって楽しく活動できるように、活動前に手順を確認したり、一人でできた部分や丁寧な飾り付け方などを称賛したりする。</li> <li>できるだけ自分の力で活動できるように、補助具を準備したり、事前にポットに両面テープを貼り付けたりしておく。</li> <li>制作意欲が高まるように、「プレゼントすることが楽しみだね」や「おばあちゃん喜ぶね」など、祖母を意識できるような声掛けをする。</li> </ul>
Bさん (3年・男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日の気持ちの変化によって活動に入るまでに時間が掛かったり、夢中になって活動している時に次の活動に移るまでに時間を要したりする。</li> <li>クラフトパンチやモザイクタイルの活動を好み、自分なりのイメージで自由に活動し、満足してからポットへの飾り付けをしている。</li> <li>日によって異なるが、教師が両面テープを貼り付けることで、自分から飾り付けをすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>祖母にプレゼントすることを楽しみにしながら、ポットに飾り付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飾り付ける箇所が分かるように、事前にポットに両面テープを貼り付けておく。</li> <li>自分から飾り付けできるように、Bさんなりのイメージで活動することを認め、様子を見ながら飾り付けに誘う。</li> <li>安定した気持ちで飾り付けができるように、工程の切り替わり時は、様子を見ながら教師が材料や道具を机の上に置く。</li> <li>制作意欲が高まるように、「おばあちゃんに頑張って作ったことを伝えようね」など、大好きな祖母を意識できるような声掛けをする。</li> </ul>
Cさん (3年・女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れが分かり、意欲的にポット作りに取り組んでいるが、片付けで離席すると、別のことに気持ちが向き、そのまま立ち歩いてしまうことがある。</li> <li>事前に両面テープを貼っておくことで、一人で活動できるようになってきている。</li> <li>友達の様子を見て、材料や道具を変えて取り組む様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で選んだり、考えたりしながら、最後までポット作りに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いてじっくり活動に取り組めるように、活動場所を固定したり、事前にポットに両面テープを貼り付けたりしておく。</li> <li>自分で好きな色や形を選んだり、考えたりしながら取り組めるように、活動中は基本的に見守り、上手に飾り付けできているときは称賛の声掛けをする。</li> </ul>

<p>Dさん (4年・男)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日の体調や気持ちの変化によって、活動が止まったり、離席が見られたりすることがある。</li> <li>ポットへの貼り付けは、印があることで見通しをもちながら活動している。</li> <li>最初に両面テープをポットに貼ってから飾り付けるなど、効率の良い作り方を考えながら制作している。</li> <li>ビーズ通しの活動を好み、自分から進んで活動に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>祖母にプレゼントすることを楽しみにしながら、時間いっぱいポット作りに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもちながら時間いっぱい飾り付けることができるように、ポットに印を付けておく。</li> <li>制作意欲が高まるように、制作の様子を称賛したり、「おばあちゃん喜ぶね」など、祖母にプレゼントすることを楽しみにできるような声掛けをしたりする。</li> </ul>
<p>Eさん (4年・女)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れが分かり、自分なりのイメージをもちながら、工夫して活動に取り組んでいる。</li> <li>制作意欲が強く、材料や道具をいろいろ変えたり追加したりしながら取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えたり、工夫したりしながらポット作りに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少しでも制作時間を確保できるように、材料や道具を最初に渡す。</li> <li>イメージ通りのポットが仕上がるように、材料や道具を多めに用意する。</li> </ul>
<p>Fさん (4年・男)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の手本や友達が材料や道具を取りに行く様子を見ることで、その時すべきことを理解している。</li> <li>工程の切り替わり時に、声掛けや指さし等の支援が必要であるが、活動の大まかな流れが分かっている、道具の使い方を考えながら丁寧に制作している。</li> <li>プレゼントする相手が分かって制作している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れが分かり、自分で選んだり、考えたりしながらポット作りに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スムーズに工程を切り替えることができるように、タイマーが鳴った後、やり取りしながら区切り良く終われるタイミングを確認したり、友達の様子に注目を促したりする。</li> <li>制作意欲が高まるように、制作の様子を称賛したり、「いっぱい貼ったらおばあちゃん喜ぶね」など、祖母を意識できるような声掛けをしたりする。</li> </ul>

## Ⅶ 評価の観点

- (1) 自分から進んでポット作りに取り組むことができたか。
- (2) 「おばあちゃん」にプレゼントすることと制作手順が分かり、教師や友達と一緒に活動することができたか。

